

「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり研究会」について

観光部観光企画課

1 研究会の設置

有識者、市町村等で構成する研究会を設置し、世界水準の滞在型観光地づくりのための課題や必要な取組などを明らかにした構想を策定する。

また、県内の各地域に世界水準の滞在型観光地づくりを普及させていくためのモデルとなる地域を選定する。

2 研究会の構成

○有識者（50 音順、敬称略）

	柏 澄子	フリーランスライター／日本山岳ガイド協会公認登山ガイド
	朽木 浩志	マゼラン・リゾート・アンド・トラスト(株)代表取締役社長
座長	清水 慎一	立教大学兼任講師
	タイラー・リンチ	亀清旅館若旦那（戸倉上山田温泉）
	星野 佳路	（株）星野リゾート代表取締役社長
	山田 桂一郎	J T I C . S W I S S 代表

○行政 県及び研究会参加 7 地域【小諸市・東御市／木曽町／松本市／大町市／白馬村／小谷村／信越 9 市町村広域観光連携会議（北信地方事務所管内市町村・信濃町・飯綱町）計 15 市町村】

3 スケジュール

5月～6月	事前調査	研究会メンバーの意見把握
	調査1	世界の代表的な山岳観光地の状況把握調査
7月	第1回研究会（7月4日）	
	(1)世界水準の山岳高原観光地の定義 (2)世界水準の山岳高原観光地の選定基準	
	調査2	県内山岳高原観光地のポテンシャル調査
8月	第2回研究会（8月26日）	
	(1)重点支援地域の選定 (2)長野県として求められる方針（たたき台）の検討	
9月～10月	調査3	重点支援地域の詳細調査
	【中間とりまとめ】	
10月～12月	第3回（10月10日 木曽町） 第4回（11月7日 信越9市町村広域観光連携会議） 第5回（12月19日 大町市、白馬村、小谷村） ・重点支援地域を世界水準の観光地にするための現地調査及び戦略検討 (1)調査3の報告 (2)関係者との対話による現状把握等 (3)重点支援地域の今後のあり方に関する検討 (4)長野県として求められる方針の検討（継続して検討）	
1月	有識者委員、市町村ヒアリング	
1月	第6回研究会（1月24日） ・構想の検討 (1)長野県の構想案 (2)重点支援地域の構想案	
2月末まで	最終調整	
3月下旬	「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」を部局長会議報告	

4 研究会における議論

(1) 世界水準の滞在型観光地に必要な要件（第1回研究会）

①	地域に根差した「独自の価値」の存在
②	世界の観光市場で認知されている
③	長期滞在を可能にする環境（バラエティに富んだ宿泊施設、滞在型プログラム、散策できるまちなみ、飲食店等の集積等。キーワードは「『高級』でなく『上質』」
④	観光地域の質の維持・向上を行うマネジメント（地域づくり、マーケティング、プロモーション等）を行う体制及びそこで活躍できる人材

(2) 重点支援地域の推薦（第2回研究会）

研究参加市町村を対象に、次の2つの視点による議論の結果、下表の3地域を重点支援地域として推薦

- ① 県内他地域でも応用できるモデルとなる可能性が見込まれる地域
- ② 5年間で一定の成果が得られると見込まれる地域

地域	テーマ
木曽町	・御嶽山の信仰や中山道に育まれた独自の歴史文化を活かした滞在型観光地の形成
大町市、白馬村、小谷村	・白馬村、立山黒部アルペンルートの外国人観光客の地域内周遊、滞在の実現
信越9市町村広域観光連携会議	・日本の原風景といえる里山文化と新幹線飯山駅を核にした連携体制を活かした広域滞在型観光地の形成

※ 推薦された地域について、県は「重点支援地域」に決定（H25.9.17）

(3) 重点支援地域の現地調査（第3回～第5回研究会）

3地域のテーマ、独自の価値、必要な施策等について、関係者から説明を受けるとともに、現地を確認し、今後の取組等について首長を交えて議論

(4) 構想の策定（第6回研究会）（別添のとおり）

- ・位置付けは、研究会から県及び市町村、関係事業者、県民に対し提言するもの
- ・目指す姿、施策の展開等について、長野県全体編と重点支援3地域編に分け、構想として取りまとめ

5 「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり構想」の実現に向けて

<平成26年度>

① 重点支援3地域に対する支援

- 登山道、案内板等受入環境整備（ハード整備）への補助
- 地域の戦略策定やマネジメント体制構築に向けたアドバイザーの派遣
- 地域の関係者の意識醸成のためのマーケティングに関する講座の開催

② 全県的な取組

- 山岳高原を活かしたアクティビティを活用し、移動行程自体を楽しむ新しい旅のスタイル「NAGANO モビリティ（仮称）」の構築に着手

山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり

<長野県が目指す「世界水準の滞在型観光地」>

- 1 地域の特徴が「独自の価値」として評価されるまで磨き上げられている**
地域の観光資源が磨き上げられ、世界の顧客から「独自の価値」とあると評価されている。かつ、その評価を長期的に維持している。
- 2 世界の観光市場の中で認知されている**
世界の観光市場で「独自の価値を持った地域」として強い印象を与え、広く認知されている。
- 3 滞在して楽しめる環境がある**
地域の特徴を最大限に楽しめるプログラム・サービスが提供され、受入環境が整っており、顧客の満足度の向上、長期滞在化につながっている。
＜求められること＞上質の追求、不断の努力、ユニバーサルな環境づくり
- 4 マネジメント体制が整っている**
行政、観光事業者、地域住民等を巻き込みながらマネジメントしていく体制が整っており、地域が自立的、継続的に「独自の価値」を磨くことができている。

<基本的な事業の構成>

- 1 目指す姿の実現に向けたビジョンづくり(H25～26年度)**
- 2 3つの重点支援地域への支援(H26年度～)**
・県と市町村で策定するビジョンに沿った事業

重点支援地域の取組を県内各地へ波及

- 3 山岳高原観光地づくりを支える基盤整備(県事業)(H25年度～)**
例：県全体で「NAGANOモビリティ」※を推進、施設の機能表示、トイレの整備、無電柱化等

※「NAGANOモビリティ」：ハイキングやサイクリング等の山岳高原を活かしたアクティビティを楽しみながら目的地間を移動し、旅行行程自体を楽しむ新しい旅行スタイル。スイスの「スイスモビリティ」を参考

<3つの重点支援地域>

飯山市を中心とする信越9市町村
◆新幹線新駅が開業、自然アクティビティの聖地としての可能性



大町市、白馬村、小谷村
◆外国人旅行者でにぎわう白馬、立山黒部アルペンルート



木曽町
◆御嶽山信仰に育まれた独自の歴史文化、中山道の宿場



